

【Insectopia (インセクトピア)】とは： insect (虫) と utopia (理想郷) を掛け合わせた造語
『蟲たちを含む、地球上に生きる全ての仲間が快適に生きることができる世界』を創るため、SHELLグループがお届けする情報発信ニュースレター。



侵略的外来種と生態系への影響

外来動植物の中には、地域の生活環境に大きな影響を与え、生物多様性を脅かす恐れのあるものがあり、それらは「侵略的外来種」と呼ばれています。本号では、日本各地で拡大する被害の実例と、生きものを「棲み分け」の視点から考える対策についてお伝えします。

外来種とは？

外来種とは、人の手によって本来の生息地とは異なる場所に持ち込まれた生物のことです。そのすべてが問題を引き起こすわけではありませんが、中には「侵略的外来種」として、生態系や人間社会に大きな影響を与えているものがあります。

外来生物対策の歴史と法規制

日本国内では、環境省を中心に1980年代から外来生物対策が本格化され、2005年に外来生物法が施行されました。これにより、「外来特定生物」の指定や輸入・飼育・放出の規制が強化され、特に警戒的な外来種の防除対策がより徹底されています。

国内の代表的な侵略的外来種（一例） ※情報元：環境省

分類	種類	影響・被害内容
動物	ミシシッピアカミミガメ (ミドリガメ)	未来のカメを駆逐して、水辺の生態系を乱す
	アメリカザリガニ	水草を食べ尽くす、生態系を破壊
	ブラックバス (オクチバス)	在来魚を捕食し、湖や川の生態系を変える
	アライグマ	農作物被害、家屋侵入、在来種と競争
	ヒアリ	人を刺して健康被害を与える
植物	セイタカアワダチソウ	他の植物の成長を妨げ、在来の草花を駆逐
	ナガエツルノゲイトウ	水辺の植物を覆い尽くし、生態系を単純化
	オオキンケイギク	在来の草花と競争し、生態系を変化させる

侵略的外来種の対策と課題

現在各地で侵略的外来種の対策が進められています。例えば、ブラックバスは釣った後の再放流が禁止され、アライグマは多くの自治体で捕獲が実施されています。一方、アメリカザリガニのように広く定着した種は、完全な駆除が困難です。外来種対策の一つである駆除は、方法を誤ると生態系のバランスを崩す恐れがあるため、「**入れない・捨てない・広げない**」という基本原則を守ることが重要です。

外来種問題と「棲み分け」の視点

侵略的外来種自体は「悪い存在」ではなく、新たな環境との相互作用で影響を与えているに過ぎません。大切なのは、生き物の「棲み分け」を根本的に考え、環境に合わせた共存の方法を探ることだと私たちは考えています。

生き物を「ワルモノ」にしないために

8thCALが主催するアート展「害蟲展」は、棲み分けなどの啓発に繋がる取り組みとして「人間の都合で『ワルモノ』とされている害虫たちも、本来はそれぞれの生態系で重要な役割を持っている」というメッセージを発信し続けています。今回取り上げた侵略的外来種も、彼等そのものが「悪い存在」ではなく、「環境との相互作用の結果として影響が出ているだけ」と捉えることができます。私たちは、こうした視点を社会に広めることで、「人間の視点で決めつけるのではなく、より広い視野で生態系を考えるきっかけ」を提供していきたいと考えます。

害蟲展season6開催決定！
詳細は裏面Informationをご覧ください。



創業65周年記念式典を開催！！

2025年3月17日、シェルグループは創業65周年を迎え、全国の社員が一同に集まりこの節目を祝いました。これまでの歩みを振り返りつつ、次のステージへ向けた決意を新たにす式典となりました。

式典では代表が未来への展望を語り、その未来を現実化する事業方針を3名の執行役員が表明しました。現場を長らく支えてくれた永年勤続者への表彰も執り行われ、改めて現場の方々に支えられている事業であることを再認識する機会となりました。その後、各部署で制作された「部署紹介動画」の上映が行われ賑やかで温かみのある時間となりました。

代表の言葉で特に印象に残ったのが、「『人』こそが最大の原動力であり経営資源である。創業者や歴代の先輩方が築いてきた『誠実』『努力』『相互信頼』という価値観を受け継ぎ、お客様との信頼関係を基盤に、ここまで成長してきた」という言葉です。

揺らぐ世界のなかで、今私たちは未来の社会に繋がる新規事業を模索しています。その実現には、知識・経験豊富な



写真：帝国ホテル「桜の間」 登壇：代表取締役 岡部

社員の協力が不可欠です。また、新たな領域の方々とパートナーシップを築くことも欠かせません。まさに「人との協働」が原動力になります。『努力』と『誠実』を積み重ね、『相互信頼』を築くことでしか、未来に繋がる基盤はつくっていけないと改めて強く感じました。

今回の式典では、普段は顔を合わせる機会の少ない全国の社員同士が交流を深め、見据える未来を共有する貴重な機会となりました。また直接言葉を交わし、同じ時間を共有するコミュニケーションの大切さを実感しました。日々、全国異なる場所での活動になりますが、根っこを支え合い、協力し合うことで、これからもよりよい社会づくりに貢献していきます。



←トコジラミをモチーフにした、シェルグループ65周年記念ロゴ

Information

● Pick up 展示会情報

NEW環境展／地球温暖化防止展

会期：2025年5月28日(水)～5月30日(金)

詳細：<https://www.n-expo.jp/>

害蟲展season6開催決定！※8thCAL主催の公募展です

作品公募を開始しました。(2025年2月3日(月)～6月9日(月)17時迄)

公式HP：<https://sites.google.com/8thcal.design/exhibition/>

● 「トコジラぬ」トピックス情報

「トコジラミ白書2025」リリース！

→ <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/00000023.000082097.html>

予防×駆除サービスの特設サイト「トコジラぬ」を設置しています！

→ <https://ur0.jp/vd5EN>

Insectopia インセクトピアの配信登録はこちらから！

QRコードを読み取り後、登録フォームよりご登録ください。ニュースリリースや採用情報、イベントなどの最新情報を配信中です。



今月のInsect



写真/解説
中峰 空
8thCAL技術顧問
真面目公園昆虫館館長



ヒメタイコウチ

(姫太鼓打)

カメムシ目タイコウチ科

学名：Nepa hoffmanni

体長18～22mm。呼吸管がとても短く、また翅が退化しているので飛ぶことができない。平地から丘陵地のごく浅い湿地や染み出し水のある溝などに生息する。国内では東海と近畿地方、四国の香川県に分布するが生息地は局地的である。国外では中国、朝鮮半島、ロシア極東地域に分布する。

